

5 月号
VOL. 478

土會奈良



SHIKAI

2014 NARA

表紙のこたば

モロッコの砦集落クサル



マグレブ地域（モロッコ、チュニジア、アルジェリア）にクサルと呼ばれる住居形式がある。アトラス山脈の南東側山麓あたりによく見る集落の形式だ。山中の河川沿いのオアシス農場の斜面に段々状に貼りついている集合住宅が砦のようになっていけばそれがクサル。住んでいるのは7世紀アラブ人がやってくる以前からモロッコにいた原住民のベルベル人。平地を追われて山中や砂漠に追われた人たち。

クサールの特徴は土でできていること、日干しレンガを積み上げて作る。当然雨が降ると少しずつ溶けていくという建物だが、降水量は奈良県の10分の1ほどなので、修理すれば20年はもつという。土に藁を入れると壊れにくくなる。床や屋根はヤシの木を並べた上に土を置いて作る。上を歩くといくらか撓む。通路・階段は複雑で部屋も入り組んでおり、3階建てくらいの住宅が絡みあってできている。近年は治安もよいので城壁都市に住む必要もなく、多くのクサルは放置されている。しかしその廃墟が美しい。

1980年代に生駒や奈良の大阪側の丘陵地で大規模な宅地開発がすすんだ。造成後の道路と擁壁だけの景色、住宅着工前の住宅団地の不思議な美しさに心を奪われたものだ。整然と並んだ段々状の宅地はペルーのマチュピチュの廃墟を思わせる。クサルにはアイト・ベン・ハッドゥのような世界遺産もあるが、山添いの小さな谷でよく見かける廃墟のクサルが私は好きだ。

近年このクサル様式が復活している。というのはエルランディア県の県都の建物は県庁、裁判所、大学、軍施設、ホテル、マンションに到るまで、伝統的なクサル方式を取り入れており、恐らく世界で最もデザインの統一された景観都市である。

（記・阪本日出雄 国際開発コンサルタント（株）パデコ）

写真は伝統的クサル様式デザインの大学と廃墟のクサル

情報・広報委員会

委員長	松尾 憲治		
職務代理			
副委員長	田上 圭吾	折目 貴司	
委員	乾井 哲	岩城由里子	
	鷗山 治	小松原寛俊	
	崎山 泰正	辻 元二	
	福西 保夫	福本 保治	
	宮浦 重彦	森馬 康之	

Contents

001

女性委員会

「珠光茶会」茶の由来と大和の茶室

002

森林技術センター

第2回「木が木でなくなる話し
「反らない、割れない木材を創る」」

004

「県エリアマネジメント中間支援事業」

006

住まいまちづくり委員会

「第9回まちづくりセミナー レポート」

008

青年委員会

「青年委員会の活動報告と
新規メンバーの募集」

009

青年委員会

「奈良の森と木と家のフェスタ」
建築士会ブース出店レポート

011

教育・事業委員会「奈良県木造住宅・
建築物の限界耐力計算による
耐震診断・耐震改修」

森林技術センター「研究成果発表会
参加レポート」

012

高田支部

「永平寺参拝・井波欄間彫刻
研修見学 レポート」

013

お知らせ

「平成26年度通常総会について」他

女性委員会

「珠光茶会」 茶の由来と大和の茶室

～おもてなしをささえる か・た・ち～

きっかけ

奈良市が冬の観光の目玉として、「珠光茶会」を開催するという新聞記事を見たのは、丁度昨年（2012年）の今頃のことです。三千家（表千家、裏千家、武者小路千家）が一堂に会し、奈良市内の七社寺や、「ならまち」のお茶室を会場として来場者4000人の大茶会を催し、期間中はお茶席だけでなく、お茶に関するシンポジウムや、エクスカッションも執り行うという大変魅力的な内容でした。

女性委員会では、長年お茶室を勉強しており、4年前の遷都1300年祭の時には、茶の由来、大和の茶室、茶室模型など、多数の出展をさせていただいたことは、ご存知の方も多いと思います。この企画に参加することができれば、それらの展示物を再度紹介できる上、建築士会の活動を一般の方に知っていただく良い機会になるのではないかと考え、奈良市にコンタクトをとった次第です。結果、奈良にゆかりのある侘び茶の祖 村田珠光に着目した展示内容は、「珠光茶会」開催の意義に相応しく、主催者の方々から是非協力して欲しいとの声をいただきました。

準備

保管してあった原寸大茶室模型は、ほこりを掃われ、多少形や設えを変えました。展示パネルは、データで残してあったものから作り直ただけでなく、引き手や欄間などの茶室の細部意匠について、趣きのある仕様を紹介するパネルを新たに製作しました。

会場は、三条通りとやすらぎの道が交差する場所にある、奈良市観光センターの1階に決まり、遷都1300年祭の時と比べると、縦横共にかなりコンパクトなスペースではありましたが、開催前日の11日には、なんとか無事に搬入、組立が終わりました。



当日

2月12日から16日までの5日間、女性会員のみなでシフトを組み、各日6名から8名がスタッフとして、展示物の説明、起こし絵のワークショップ、図書の販売に当たりました。

初日には、展示会場にも着物姿のお客様がちらほらみえたので、茶席に行かれたのかお聞きすると、残念ながら前売りのお茶券は完売しており、「ならまち」の中のお茶席に行かれるとのことでした。前の週末では、立春という暦のとおり、暖かい日もおおかったのですが、この週は打って変わって厳しい寒さが戻ってきて、13日には奈良市内でも15cmもの雪が積もる事態となり、晴れ着では、お茶席にはどうにかして行っても、観光センターのほうまで足をのばしていただくのは無理な相談だったようです。やっと路上の雪も溶け、少し暖くなった日曜日には、たくさんの方が会場まで足を運んで下さいました。中には、自宅に茶室を作るにはどうすればよいか、といった質問をされる方や、お茶席で茶室模型のことを知って、撤収間際に駆けつけてくださった方などもいて、これが5日間続いていれば良かったのにと感じてしまいました。



これから

奈良市の「珠光茶会」は、来年も開催されます。何分、はじめての試みだったので、色々問題は出ましたが、改善してより良い方向に進めていく方針だそうです。

女性委員会では、この行事を委員会活動の中に組み込み、より充実した内容を提案していけるよう、考えていくことになりました。どうか、来年の「珠光茶会」には是非起こし下さい。

（記・女性委員会 山本規子）



木が木でなくなる話し

第2回「反らない、割れない木材を創る」

1. はじめに

今回は私の専門分野の一つである「木材の化学加工」の概略についてお話ししましたが、今回からは各論です。まず始めに、「木材の寸法安定化」、つまりは木材の反りや割れを抑制する技術についてお話をさせていただきます。

2. 木材の含水率と寸法変化

その前に、木材はどうして寸法変化を起こし、それによって「反り」などの変形が生じるのかという話をしなければなりません。図1は丸太の三段面図です。三段面とは「木口、柾目と板目面」のことで、木口面は樹木の伸長生長の方向（繊維方向：L方向）に直交した断面、一方、柾目面と板目面は、伸長方向に平行で、前者は樹心を通り、肥大生長の方向（放射方向：R方向）に沿った断面、後者は年輪に接する方向（接線方向：T方向）に沿った断面を言います。さらに、丸太の中心に近く、スギやヒノキでは赤っぽく見える部分を心材、外周に近く白く見える部分を辺材と呼んでいます。なぜ、このようにそれぞれに呼称が付いているのか、それは木材の場合、それぞれの部位、断面、方向で性質が大きく異なるからです。たとえば、心材と辺材では、耐朽性や耐蟻性（シロアリ耐性）も大きく異なり、ヒノキは耐朽性も耐蟻性も高いとされている樹種ですが、辺材はいずれの耐性もありません。本題に戻しましょう。

図2は、色々な材料の相対湿度と平衡含水率との関係を示したグラフです。木材は他の材料に比べて、外気の影響を受けやすく、含有する水分量が大きく変化します。

図3は針葉樹の仮道管（前号参照）を拡大して観察したときの模式図です。仮道管の細胞壁は数層に分かれていて、最も厚いのが二次壁中層（S2層）で、そこではセルロース分子がほぼL方向に配向しています。その外側に位置する二次壁外層（S1層）ではセルロース分子が横方向に配向しています。

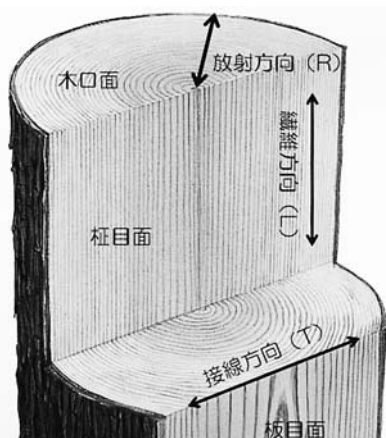


図1 木材の三断面図

ところで、木材は湿気をどこで吸収するかと言えば、答えは「空隙」ではなく、「細胞壁」です。木材はセルロースなど、水酸基（-OH）を多く持つ成分が過半を占める親水的な材料です。図4の模式図のように、水分子はセルロース分子間に入り込み、その間を広げます。このように細胞壁内で木材成分に吸着されている水を「結合水」といいます。細胞壁には最大で木材重量の約30%の結合水を含むことができますが、この結合水の増減により含水率0～30%の間で寸法が変化するので。一方、樹木が生きている時などには、含水率が30%を超え、空隙部分にも水が存在します。その水を「自由水」といいますが、この水は木材の寸法変化には関与しません。前述のとおり、細胞壁の

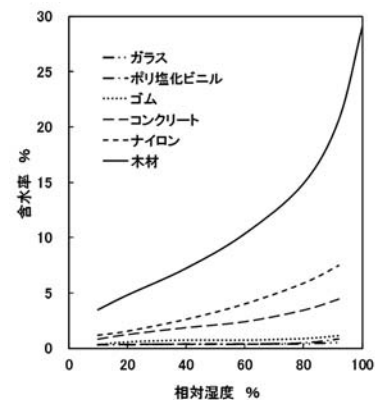


図2 各種材料の相対湿度と含水率

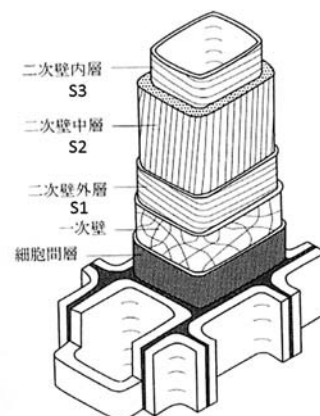


図3 針葉樹仮道管細胞壁の解剖図

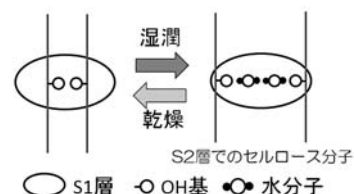


図4 木材の寸法変化のメカニズム



略 歴 伊藤貴文 (いとう たかふみ) 奈良県森林技術センター副所長
1956年京都市生まれ。1982年3月京都大学大学院農学研究科林産工学専攻修士課程修了。1983年4月奈良県林業試験場(現森林技術センター)勤務。1997年7月、京都大学より農学博士の学位授与。2013年より現職。専門分野は「木材の化学加工」、「木質バイオマスの利用」

賞 罰

- ・スギ樹皮を原料とする和紙製造技術によって、1994年5月、日本林業技術協会より第40回林業技術賞授与。
- ・水溶性薬剤による木材の化学修飾に関する研究(寸法安定化・高耐久化)によって、2002年1月、日本木材学会より第3回技術賞、同年4月、文部科学大臣賞(第22回科学技術振興功績者)
- ・吸湿性を抑えた不燃化技術によって、2010年5月日本木材加工技術協会より第55回加工技術賞授与。

中で最も分厚いS2層では、セルロース分子はL方向に配向しており、その分子間に水が入り込むことで木材の膨潤が起こりますので、L方向に比べてR方向やT方向の寸法変化が大きくなるのです。詳細は割愛しますが、R方向とT方向でも寸法変化率は異なり、前者は後者の半分程度で、各方向の寸法変化率はおおよそ、L : R : T = 1 : 10 : 20とされています。このように方向によって寸法変化率に差があるので、木材は反ったり、割れたりするのです。

また、一般的には密度が高い(実質部分が多い)樹種の方が、寸法変化率は大きくなります。実際、ブナ(密度 $0.63\text{g}/\text{cm}^3$)のT方向とR方向の含水率0%から30%までの全膨潤率はそれぞれ11%と5%程度ですが、スギ(同 $0.38/\text{cm}^3$)のそれは6%と3%です。

3. 化学加工による寸法安定化

私が化学加工の研究を始めたのは今から30年余り前のことです。安全で、簡便な処理技術の確立を目指して、水溶性薬剤に限定して選定を始めました。注目をしたのが、図5に示す環状尿素樹脂の一種であるジメチロールジヒドロキシエチレン尿素(DMDHEU、通称グリオキザール樹脂)でした。これは木綿(セルロース)繊維の改質剤で、形状記憶シャツの製造にも使われている薬剤です。セルロース分子間に橋渡し(架橋)構造を形成することで形状を固定させます。分子量178と低分子で、木材の細胞壁中にも浸透が可能と思われる(前号参照)、木綿繊維に用いたときと同じことが起こる可能性があると考えました。実際には、木材に適用するにはかなりの工夫が必要で、紆余曲折がありましたが、結果的には木材成分間に架橋構造を形成して、木材の寸法変化を約1/3程度に抑えることができるようになりました。実際の処理は比較的簡便で、濃度を10~30%に調整したDMDHEUを含む水溶液を、加減圧注入缶を用いて木材中に含浸した後、熱風乾燥機を用い、最終的には 150°C まで昇温して、木材成分中の水酸基と脱水

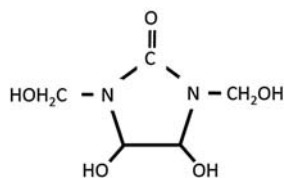


図5 DMDHEUの構造式

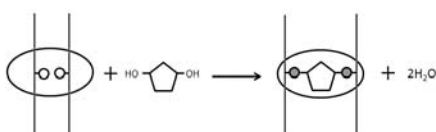


図6 DMDHEUと木材との反応式

縮合反応させます(図6)。

ところで、この技術はどのようなところに使われているのでしょうか。その第一は床暖房対応のフローリングや公共施設の床材です(図7)。床暖房では床材の含水率変動が大きく、無処理の木材を使うと隙間や反り、塗膜の亀裂といったトラブルが多く発生します。六本木ヒルズなど、森ビルが手掛けるタワーマンションの木質系床材には、当技術を用いたフローリングが多く使われているそうです。

DMDHEU処理のように、木材成分との反応を伴う処理では、寸法安定性の他、耐朽性や耐蟻性も改善されます。図8はDMDHEU処理と無処理のヒノキ杭の劣化状況を示していますが、処理によって劣化状況が大きく軽減されています。このような利点により、木橋の欄干(図9)のような野外仕様の木製品にも当技術が使われています。

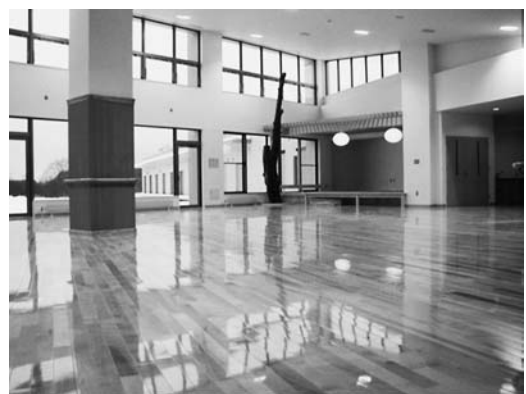


図7 DMDHEU処理フローリングの使用例



図8 DMDHEU処理(左)と無処理(右)ヒノキ杭の劣化状況



図9 木橋の欄干に使われたDMDHEUヒノキ材



県エリアマネジメント中間支援事業

(H25年12月～H26年3月) —レポート—

【現状と課題】

人口減少・少子高齢化の中、県内の伝統的価値のある町家・民家、その町家に看板を付けた店舗が空き家・空き店舗化し、放置され、家屋の倒壊による危険性、防犯・火災面の心配も増えています。また、解体されるケースでは、解体後、駐車場化、もしくは個性のない新建材の家へと変貌し、まちなみ景観が崩れ、地域資源の損失とコミュニケーションの低下、郷土愛をもたない子供たちが増えることによる教育の低下が懸念されています。



商店街まちづくり事業 桜井市本町通り

【必要性】

このような中、県内でも伝統的な町家の残存率が高い桜井市本町通り商店街では、中小企業庁の補助事業；商店街まちづくり事業に採択され、アーケード撤去・防犯カメラ設置・LED街路灯整備・付帯設備等の整備が始まっています。そして、本事業がきっかけで、戸々の解体や改修が加速していますが、景観調和を意識して改修をされているか疑問な状況です。今求められていることは、官民連携して、景観に調和するデザインコードを早期に示すことです。価値のある建物は、安易に転売・解体するのではなく、サブリースや買い取る会社をつくり、まち全体をみて必要な機能を配置していく事業実施とそれを支援する体制として、(下記の金野氏や吉井氏のような) 中間支援者の発掘・配置と地域活性化を目的とした資金支援体制が求められています。

【本事業に関連する経緯と具体的活動・提案】

今までに取り組まれている活動や提案は下記のとおりです

- ①大和・町家バンクネットワーク(空町家情報の一元化)
- ②町家の利活用につなげる奈良・町家の芸術祭

HANARART

- ③奈良県地域資源

発掘発信事業

(H22～24)→一例



仕舞屋計画提案：畿央大学三井田ゼミ

- ④文化財建造物専門家育成講習会(奈良県建築士会)
- ⑤新町家デザインコードづくり(NPOさんが俵座)
- ⑥奈良県エリアマネジメント推進事業及び中間支援事業
- ⑦知の連携拠点整備事業(奈良県立大学と奈良市・宇陀市・桜井市・明日香村による連携；文科省) H25～30

桜井駅前エルト2階
に県立大学の地域サ
テライトを設置



【各地区エリアマネジメント推進事業(H25県補助)】

- 明日香(飛鳥)ニューツーリズム協議会
⇒クラウド型ファンドを活用したゲストハウス改修
- NPO泊瀬門前町再興フォーラム
⇒暖簾のある町並みに向けた取り組み
- 桜井市本町通り・周辺まちづくり協議会
⇒桜井駅南口(中心市街地)の活性化に向けた取り組み

【エリアマネジメント中間支援事業(H25県委託)】

- (一社)うるわしの桜井をつくる会
⇒上記3地区を支援する
⇒桜井駅前再開発ビルの有効活用
⇒産官民のネットワークをつくる(特に金融機関)
⇒まちづくり会社設立に向けた検討
⇒先進地の視察及び発信



先進事例1：(一社)ノオト(篠山市) 金野氏・谷垣氏

●国家戦略特区「歴史的建造物の活用」について

※建築基準法の取り扱い；現行法で新たな審査制度を創設(新特区制度)

⇒地方自治体に新たに設ける専門の委員会により、建築基準法の適用除外を認める仕組みを推進

⇒文化財保護法でいう保存建築物であって、特定行政庁が建築審査会の同意を得て指定したもの

※間もなく国土交通省より通知予定

●地域経営の視点

⇒協議会型まちづくりとは違い、特定のエリアを対象として公共空間の管理・運営やエリアプロポジション等を特定の組織が行う

⇒空き町家を購入→景観を配慮しスケルトンで補強→必要な施設として販売し、適切な利益を得る

エリアマネジメントの定義(国土交通省HPより)

地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業主・地権者等による主体的な取り組み

「良好な環境や地域の価値の維持・向上」には、快適で魅力に富む環境の創出や美しい街並みの形成、資産価値の保全・増進等に加えて、人をひきつけるブランド力の形成、安全・安心な地域づくり、良好なコミュニティの形成、地域の伝統・文化の継承等、ソフトな領域のものも含まれます。

先進事例2：株式会社黒壁（長浜市）伊吹氏

●黒壁ガラス工房25周年ファンド

- ※ファンド会社：ミュージックセキュリティーズ
- ⇒文化に魅力を感じるターゲット（1万人）を絞り込んで広告を出せるクラウド型ファンドを活用
- ⇒最終的に手数料20%掛かるが広告効果あり
- ⇒明日香ニューツーリズムが黒壁を参考とし、ゲストハウスに活用（3万円／口、特典：無料宿泊券等）

先進事例3：長浜まちづくり会社（長浜市）吉井氏

●長浜駅前再開発のプロセス

- ・H18：まちづくりフォーラム・研修会・懇話会
- ・H19：中心市街地活性化基本計画策定委員会発足
- ・H20：中心市街地活性化協議会設立
- ・H21：長浜市中心市街地活性化基本計画認定
- ・H22～23：市と商工会で地権者に関係なく計画作成
- ・H24～25：国土交通省エリアマネジメント補助事業
- ・H25：地権者を含めまちづくり委員会発足
- ・H26：理事4名で補償額と基本計画作成へ

●会社運営について

- ⇒プロとしての集団意欲を働ける環境をつくること
- ⇒責任感とスピード感を持って、横につなげる役割

県エリアマネジメント中間支援フォーラム（報告）

- 主催者：（一社）うるわしの桜井をつくる会
- 共催者：奈良県
- 開催場所：桜井市立図書館
- 開催日時：H26・3・15（土） 10：00～17：00



挨拶：県土マネジメント部まちづくり推進局中尾晃史次長
「補助金の切れ目が縁の切れ目のまちづくりから、全国からまちづくりに賛同される方を少しでも助けてあげたい。かつ、自分自身も投資家になり資金調達に協力しよう。このような、行政頼みでない先進的な事例を今回のフォーラムで学び、何とか自立できるまちづくりを考えましょう。」

1部：クラウド型ファンドオープンセミナー

講師：ミュージックセキュリティーズ(株)



（特 色）

- ・儲かるから投資をしようという人は殆どいない
- ・男性が圧倒的に多い
- ・当初はインターネットをする20～30歳代が多かったが最近では60歳代が1／4を占めるようになった

（事 例）

- ・自治体との連携—太陽光パネルを市の施設に設置するため地元の方々から資金を調達
- ・企業との連携—地場の特色ある商品づくりをし、出口でファミリーマートで売る—阪神電鉄が高架下の空き区画を飲食店で埋めるにぎわい創出事業

【基調講演】

エリアマネジメントの現状とこれからの展望

「信頼」と「地域ルール（ガイドライン）」が社会関係資本をより良い関係として構成することにつながる



エリアが抱えている課題を共有する

↓
資源活用しエリアの活性化に関係者が協働する

↓
関係者の絆が強まりエリアマネジメントの活動が深化する

講師：小林重敏氏（東京都市大学教授）

【今後考えられる中心市街地の方向性】～考察～

○大学との連携

- ・県立大学と奈良市・桜井市・宇陀市・明日香村
⇒地（知）の連携拠点；地域人材育成と地域再生
- ・建築士会ヘリテージマネージャーと大阪工業大学
⇒中心エリアの歴史文化をひも解く面的調査(文化庁採択)
- ・インターンシップ⇒地域ゼミ⇒卒業研究⇒雇用へ繋ぐ
- ・地域連携：本事業を通じ、県・桜井・明日香・宇陀地域の官民と各大学との連携を深めるきっかけとする。また、関東圏の大学（明治大学藤江ゼミ等）とのつながりにより、ターゲット層である東京へ情報発信する。

○中心市街地活性化基本計画の認定を受けるかどうか？

- ・外科的手術（再開発）が必要な場合はOK、以外は慎重にアドバイザー：(株)地域計画研究所 中塚氏より

○文化財を活かした地域活性化事業（文化庁）を活用し（歴史～観光産業）若手ガイド育成を実施⇒継続が重要

- まちづくり会社を設立し、地域再生ファンドでなく、地域活性化ファンドを運用するの一案。そのためには、地元金融機関の関与が重要となる。（記・中尾七隆）



住まいまちづくり委員会

第9回まちづくりセミナーレポート

第9回まちづくりセミナーが、平成26年2月21日(金)・22日(土)に開催され、奈良県建築士会からは16名が参加しました。

このセミナーは、兵庫県建築士会まちづくり委員会が平成22年度から近隣府県の先進的なまちづくりをしている地区を訪問して、当地でまちづくりに関わっている住民・事業者、行政、当該建築士会まちづくり委員会関係のメンバーと交流するとともに、協働で今後の「まちづくり」のあり方を展望する意見交換を行う「出張まちづくり委員会」を実施されています。その考え方は、それぞれのまちが有するさまざまな特性・魅力や課題などをふまえて、住民・事業者、行政、専門家等が協働して今後のまちづくりのあり方を展望し、次世代にまちづくりを継承していくための「まちづくり」の実践活動につなげる取組です。

今回は平成20年6月に重要伝統建造物群保存地区に選定された福井県小浜市の「小浜西組」を訪問し、福井県建築士会まちづくり委員会と共同企画で「出張まちづくり委員会」が開催され、この催しが日本建築士会連合会の企画支援で「第9回まちづくりセミナー」として実施されました。

福井県小浜市到着後、小浜西組地区を小浜西組町並み協議会活性化委員長佐野達也氏と小浜市教育委員会文化課野瀬昌寿氏の案内でまち歩きを行いました。

小浜市は福井県の南西部にあり、小浜湾周辺には中世にかけて整備された城下町がよく残されています。保存地区は小浜沿いの砂州上に展開するまちなみで、地区南東には中世の城郭・後瀬山城跡(国史跡)があり、西組地区は、門前町、商家町、茶屋町、山麓の寺社で構成されており、中世以降の街路や地割りをよくとどめています。また、当地はNHKの連続テレビ小説「ちりとてちん」の舞台にもなりました。

まち歩きでは、茶屋を改造した町並みと食の館、町並み保存資料館、酒屋、芝居小屋等を見学するとともに、現在改修工事をしている町屋や、工事を行う前の町屋、工事が完了して実際にお住まいになっている町屋も見学することが出来ました。



小浜西組伝統的建造物群保存地区

まち歩き終了後、ホテルアーバンポートにてシンポジウムが開催されました。シンポジウムでは各地からの報告①小浜西組の取組Ⅰ(小浜西組町並み協議会活性化委員長佐野達也氏、②小浜西組の取組Ⅱ(小浜市教育委員会文化課野瀬昌寿氏、③兵庫・龍野川西地区の取組(龍野地区まちづくり協議会副会長浅井良昭氏)奈良・今井町の取組(NPO法人今井まちなみ再生ネットワーク米村博昭氏)の報告がされました。

小浜西組地区は、重要伝統建造物群保存地区に選定されるにあたって一度は住民の理解が得られず選定を見送ったが、その後、住民と行政が一体となって、協議会の設立やきめの細かい個別訪問等により住民の理解を得て、町並みの恒久的保存と歴史を生かしたまちづくりに向けて取り組み選定されたそうです。

龍野川西地区は、重要伝統建造物群保存地区の選定に向け住民の理解を得るため、取り組んでいる報告がされました。



奈良・今井町の取組報告

引き続きパネルディスカッションが行われ、日本建築士会連合会まちづくり委員会委員長森崎輝行氏の進行で、パネリストに各地からの報告をされた4氏に兵庫県建築士会まちづくり委員会副委員長で神戸大学大学院工学研究科教授三輪康一氏を加えて伝建地区のまちづくり「いろは」についての意見交換が行われました。

伝建地区は空き家等様々な問題を抱えているが、伝建地区に選定されることによって地区が面で保存され、道路・建物修景等のハード事業が行われるメリットに加え、地域のブランド力を高め住民が誇りを持って住み・働ける等。町並み保全は生活の保全である等の意見が出されました。



パネルディスカッション

1日目の最後に懇親会が行われました。懇親会では兵庫県・福井県の建築士や小浜西組の関係者が参加され、まち歩き・シンポジウムで聞けない苦労話等の話を直接聞くことが出来ました。

2日目の午前、兵庫県建築士会の方々と合同で若狭町熊川宿重要伝統的建物群保存地区のまち歩きを行いました。熊川宿は、若狭地方のほぼ中央部の三峡にあり、江戸時代に若狭街道の物資流通の中継拠点として繁栄し、東西方向に通る街道筋に形成され、街道筋には前川と呼ばれる水路が流れ、屋敷への出入口に石橋が架かり、所々に「かわや」と呼ぶ洗い場があります。平入と妻入の町屋主屋が入り交じる、変化のある町並み景観を構成しています。

宿場のほぼ中央に宿場館（若狭鯖街道資料館）があります。宿場館は、昭和15年に伊藤忠商事の社長であった伊藤竹之介翁が熊川村役場として建てたものが、平成10年に歴史資料館として公開されています。

宿場館では、ボランティアの方に熊川宿の歴史や町並みの成り立ち等の話が聞けたので、より詳しく熊川宿の見学が出来ました。

また、地元の方が昭和初期この地方で特産であった葛の製造に取り組まれており、その作業場も見ることが出来ました。奈良の大宇陀は大和葛で有名ですが、その地元に住んでいながら葛の作業場とその製造の様子を今まで見たことがなかったので大変良かったです。



若狭町熊川宿

兵庫県建築士会とは熊川宿で別れ、私達奈良建築士会の一行は、鯖街道を南下し滋賀県大津市坂本重要伝統的建物群保存地区のまち歩きを行いました。

坂本地区は、近世以降に延暦寺と密接な関係を保って形成された里坊の特色ある建築や庭園、門や当地方独特の穴太衆積みの石垣等が、緑深い樹木や清冽な水路等とともにすぐれた歴史的風致を維持しています。

春には日吉大社等に多くの人々が訪れる当地ですが、今はまだ春には早いので人の姿も少なく、ゆっくりとまち歩きが出来ました。



大津坂本

第9回まちづくりセミナーで、重要伝統的建物群保存地区に取り組んでおられる3地区の話や、3か所の地区を見学することが出来、大変有意義な2日間を過ごす事ができました。
(記・宇陀支部 太田幸雄)

1. はじめに

平成24・25年度の青年委員長を務めさせていただきました城田全嗣でございます。

建築士会会員の皆様方には、日頃、青年委員会の活動に対して様々なご協力をいただき、御礼申し上げます。

会員の皆様方に、青年委員会の活動を知っていただきたく、この2年間の活動について報告させていただきます。

また、あわせて、私達と共に活動いただける新メンバーの募集について、案内させていただきます。

2. 青年委員会の組織概要

青年委員会とは、建築士会に所属する正会員及び準会員のうち、40才以下の会員で構成された委員会です。(青年委員会に参加いただくかどうかは任意です)

現在、青年委員として、活動してくれているスタッフ数はおおよそ、40名程度です。

毎月1回、定例会議を行い、定例会議にて青年委員会担当事業についての企画・運営を行っております。

定例会議は平日の夜に、奈良県建築士会館（近鉄新大宮駅下車徒歩10分）か、奈良県社会福祉総合センター（近鉄畝傍御陵前下車 徒歩5分）にて行っております。

3. 青年委員会の活動目標

我々青年委員会はこの2年間、以下の明確な目標を掲げて活動してまいりました。

—平成24年度活動目標—

○次世代への引継ぎ及び新規入会者の増強：

40歳に近い委員が多かったため、次世代の委員に多くの経験を積んでもらうとともに、青年委員の人数を増やして、活発に活動できる組織にすることを目標としました。

—平成25年度活動目標—

○外向き事業の実施による建築士の認知度アップ：

内向きではなく、一般市民の方々を対象とした視野の広い活動を行うことにより、建築士及び建築士会を多くの方々に知っていただける活動を行うことを目標としました。

4. 事業計画上のポイント

前述の活動目標を踏まえて、以下の項目に重点を置いた事業を企画・立案いたしました。

○建築士会会員の皆さんに喜んでいただける事業であること
○建築士及び建築士会を一般市民の方々に知っていただくための活動であること

かつ、

○上記の活動を行う青年委員にとって、かけがえの無い仲間ができることに加え、資質向上に資する活動であること

5. 平成24・25年度の活動実績

①会員増強事業

・建築士試験合格者見学会及び祝賀会



合格者見学会



合格者見学会

②地域イベントへの建築士会ブース出店

- ・大和さくらい万葉まつり
- ・大和高田・橿原・葛城ものづくりメッセ2012
- ・奈良の森と木と家のフェスタ（橿原イオン アルル）



奈良の森と木と家のフェスタ



大和さくらい万葉まつり

③子供たちを対象とした建築士との交流事業

- ・公園で学ぼう！ 自然観察会
- ・みんなでつくろう！ お菓子の家



自然観察会



お菓子の家

④講習会・見学会

- ・二級建築士設計製図試験対策講習会
- ・大人の工場見学会（リクシル、近畿車輛）

⑤他府県建築士会・他団体交流

- ・三重県建築士会 青年委員会との交流見学会
- ・全国大会での近畿ブロック代表としての発表



近畿車輛にて



全国大会での発表の様子

⑥建築士及び建築士会普及活動のためのグッズの制作

木のパズル、カヌー・シーカヤック、マグバー、
木くず風呂、三つ折チラシ、鉄道ジオラマ、
青年委員会活動DVD、建築士会のぼり、赤ポロシャツ



木のパズル



マグネットバー



木くず風呂



シーカヤック

6. 次年度の活動予定

この2年間の活動を踏まえ、平成26年度も数多くの事業を企画・検討中です。

随時、ご案内いたしますので、興味のある事業があれば、是非、参加ください。

7. 今後の課題

おかげさまで、この2年間の間に様々な活動を行うことができましたが、更に意義のある活動を行うためには、以下の課題をクリアする必要があると考えております。

これらの課題は我々青年委員会としてだけでなく、全国の建築士会の共通課題でもあらうかと思いますが、皆様、いかが思われますでしょうか。

1) 地域イベントに出店した際の来場者に建築士や建築士会を知ってもらうためのチラシの作成が必要です。

2) 幅広い活動を行うために、女性・公務員・会社員など、立場の異なる方々の参加を必要とします。

また、学生から年配の方まで、様々な世代の方々に喜んでいただける事業の企画が必要です。

3) 建築士会内での活動ではなく、各種異業種団体や行政との交流や共催事業が必要です。

8. 最後に

最後となりましたが、この場をお借りしまして、この2年間、我々青年委員会の活動に協力いただきました全ての皆様に御礼申し上げます。

次年度からは新体制での活動がスタートいたします。

会員の皆様に喜んでいただけるような活動を行ってきたいと思いますので、これまで以上のお力添え、何卒、よろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

（記・青年委員会 奈良支部 城田全嗣）

〈青年委員会 新規メンバーの募集〉

～建築士会でええとこ伸ばそう、見つけよう～

建築士会 青年委員会では随時、新規メンバーを募集しております。

活動については、委員会活動がライフワークのようにしているメンバーから、年に数回だけ、顔を見ることが出来るメンバーまで、参加のしかたは様々です。社会人になってからの部活といった感じで自由楽しく活動しております。

活動に興味をお持ちいただいた方は建築士会 事務局（TEL：0742-30-3111）

まで問い合わせ願います。

青年委員会メンバー一同、お待ちしております。





青年委員会 「奈良の森と木と家のフェスタ」 建築士会ブース出店レポート

去る2月22日（土）と23日（日）の2日間に亘り、イオンモール橿原にて開催された「奈良の森と木と家のフェスタ」に建築士会ブースを出店いたしましたので、報告いたします。

1. イベント主旨・概要

奈良の木の利用促進を目的に、県と林業・木材産業・設計業・建築業団体で設立された「奈良の木マーケティング協議会」の主催で行われたこのイベントは、県下で活動されている製材所や工務店等で構成された各種団体がそれぞれの活動報告や施工事例などを一般消費者に広く知ってもらい、「奈良の木の良さを知ってもらおう、奈良の木を身近に感じてもらう、奈良の木を使ってもらう」というコンセプトのもとに開催されました。

2. 建築士会の出店ブース内容

青年委員会では、一般消費者の方々に建築士や建築士会を知っていただく絶好の機会であると考え、このイベントに出店いたしました。

出店内容ですが、これまでも様々なイベントで子供達やご家族に好評いただいている「木のパズル」と「木製カヌー」を展示し木のぬくもりや匂いを感じてもらいました。

また、今回は青年委員会のスタッフが制作してくれた「鉄道ジオラマ模型」を新たに展示しました。

製材工場での木材加工から住宅の完成までの流れが分かりやすく再現されていたので、建築士の仕事を多くの方々に知ってもらうことができました。

その他にも「青年委員会の活動報告書」の掲示や「青年委員会活動PV」の放映などを行いました。

3. 出店による成果

両日とも午前10：00～午後7：00までと長丁場のイベントでしたが、建築士会ブースには我々の予想をはるかに上回る何千人という方々に足を運んでいただきましたので、建築士や建築士会を知っていただくという目的は達成できたと感じております。

また、イベントブースを運営してくれた両日併せて延べ30名以上の青年委員会スタッフにとって、普段はできない貴重な経験ができたことも大きな収穫でした。

青年委員会では、多数の地域イベントへの出店を通して、様々なコミュニケーションツールが生まれました。

今後も改良を加えて利用することにより、多くのイベントに参加する意義が出てくるのではないかと考えます。

平成25年度はこれが最後の委員会活動となりましたが、次年度に向けて大きなステップとなる事業になったと確信しております。

（記・青年委員会 藤山昭生）



木のパズルブース



鉄道ジオラマ模型



建築士会ブース全景



やりました！



木製カヌーで、はいポーズ



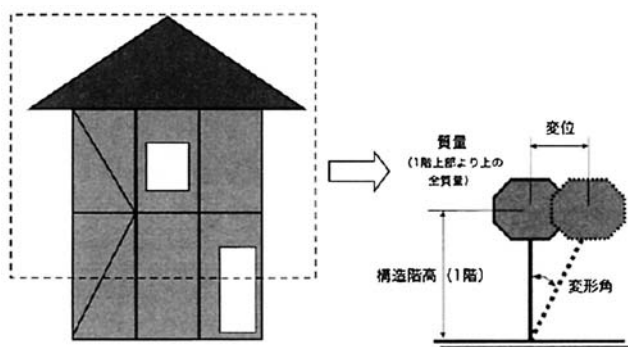
連日、大盛況でした



教育・事業委員会 奈良県 木造住宅・建築物の限界耐力計算による 耐震診断・耐震改修

「奈良県 木造住宅・建築物の限界耐力計算による耐震診断・耐震改修」の講習会に参加させて頂きました。

印象深かったのが、限界耐力計算について1質点系への置き換えは数学的に面倒な作業であり、また振動理論をよく理解しないでモデル化を行えば計算結果に危険側の誤差を生ずる可能性があるという事です。今回頂いたテキストでは、2階建ての木造住宅でも一定の条件（平屋条件）を満足すれば2階および小屋部分を剛体と見なし、それらの重量を見込んだ平屋として1階部分の最大応答値を図上で評価する簡易計算手法を用いてよいことになっています。そして平屋モデルが成立するための条件は、2階部分（小屋組を含む）と1階部分の耐力および重量が算出されていれば比較的容易に判別できます。



後もう1点特に興味深かった事が、耐震シェルターについての講義の件で、家屋内の特定の箇所のみ耐震シェルターを設置し、その箇所だけは安全な場所とする手法で、特にある一文が印象深く、「老朽化し、すでに耐震性がほとんどないと診断される住宅であっても、そこに暮らし続けざるを得ない災害弱者（身体的に不自由な場合、あるいは経済的・社会的に弱い立場にいて自力では耐震改修はおろか災害時に非難も困難な人たち）を地震被害から守るためのセーフティネットである。」と記載されており、このような耐震補強が普及すれば、災害にて命を落とす人の数が激減するのではないかと考えております。

今回の講習会にて、限界耐力計算とはどのような事で、どのような計算をしているのかが分かり、勉強になりました。

（記・株式会社伸構造事務所 舟山貴幸）



平成25年度 奈良県森林技術センター 研究成果発表会 参加レポート

3月号から連載を寄稿して頂いている、伊藤貴文氏が副所長として所属されている「奈良県森林技術センター」の研究成果発表会が2月21日に同所研修館で開催され、参加させて頂きました。

森林技術センターの概要は既に3月号の連載の中で紹介されていますが、現在のセンターは森林資源課と木材利用課という研究2課と総務企画課の計3課で構成されています。その試験研究の基本方針は、多様化する奈良県民の森林や木材に対する要望に答えて、先導的な研究の推進と実用的な技術の開発を行い、県内の林業・木材産業の振興、山村の活性化、健全な森林づくりに寄与する為、試験研究を行っております。

今回の発表は平成25年度の研究成果発表で、テーマは「里山再生のために～里山の維持管理と利用を目指して～」でした。

同センター所長の熊澤弘治郎氏のご挨拶で始まり、【特別講演】独立法人 森林総合研究所 関西支所 主任研究員 奥敬一氏に依る「里山林再生を目指した社会実験」の演目のもと、過去の里山の使いみち、現在の状況、解決すべき問題点の整理。多様な価値を持った里山林を取り戻す手法、例えば薪などの小規模分散型の熱エネルギー利用等、里山と社会の関係について講演されました。次に【成果発表】①「竹材を主成分とするバイオマスプラスチックの開発」を副所長の伊藤貴文氏が、里山の竹材を主成分として竹粉80部と熱可塑性樹脂20部を混練りした原料で成形試験を行った竹バイオプラスチックの物性等について発表されました。②「ニホンジカが霊温帯落葉広葉樹林において中大型獣と林分構造に与えた影響」を森林資源課 主任研究員 若山学氏が、森林保全に資することを目的にニホンジカの影響の調査発表。ニホンジカの食害により、間接的に中大型哺乳類の森林利用を阻害し、特にニホンジカの樹皮剥ぎは、小径木の枯死が生じ、小径木の非常に少ない林構造へと変化してきている事が証明されてきたとの発表でした。

又、【話題提供】として①「竹林の利用と流通 鹿児島・福岡県の事例紹介」を木材利用課 総括研究員 増田勝則氏より。②「奈良県における木質バイオマス実証実験事業」を奈良の木ブランド課 課長補佐 室垣内清明氏よりの報告。③「萌芽更新による里山林の再生」を総務企画課 主任研究員 迫田和也氏から「里山林の更新技術として有力な萌芽更新新技術の試験の経過報告」。

以上、興味の引かれる盛りだくさんの発表会でした。

（記・桜井支部 松尾憲治）



高田支部 研修見学会報告

永平寺参拝・井波欄間彫刻研修見学 レポート

日時 平成26年3月8日(土) 午前8時より
平成26年3月9日(日) 午後7時半まで
場所 曹洞宗大本山 永平寺
井波彫刻総合会館・井波別院 瑞泉寺

今回の参加者は、建築士会会員とご家族及び賛助会員の合計13名でした。3月8日(土)大和高田を出発したバスは、一路氷見温泉に向かいました。途中、曹洞宗大本山永平寺に立ち寄りました。修行僧の方の説明を聞いて七堂伽藍を参拝しました。仏殿の欄間が素晴らしく、明日の研修を想像し、期待に胸が膨らみました。



永平寺仏殿の欄間

余談になりますが、参拝順路の最初にある傘松閣2階の156畳敷き大広間の格天井は、昭和5年当時の著名な日本画家144名による230枚の花鳥彩色画がはめ込まれ、絵天井の間として有名です。またその内、5枚(3種類)が花鳥画以外の彩色画となっています。「鯉」・「唐獅子」が各々2枚、「栗鼠^{りす}」が1枚です。この3種類の絵を探し、祈願すると願いがかなうと言われております。立ち寄られる機会があれば、探してみるのも参拝の一つの楽しみ方だと思います。ちなみに私は、唐獅子2枚であきらめてしまいました。

長距離移動でしたが、車内の雰囲気は和やかで、宿での美味しい食事や温泉で日頃の疲れを癒し、参加者の懇親は一層深まりました。

2日目はいよいよ欄間彫刻見学会です。快晴に恵まれ、期待感も増々高まりました。

最初に井波彫刻総合会館を訪れ、実際に彫師をされている方のお話をお聞きし、著名な彫師の方々の系譜を学び、作品を目にしました。素晴らしい彫刻は勿論、欄間の厚みが2寸から2寸5分もあり、立体的に見える事に大変感銘を受けました。また、製作期間は、下絵→荒彫り→仕上彫りと約4カ月を要するという話を伺い、大変貴重な伝統工芸だと改めて認識しました。



井波彫刻総合会館前にて

総合会館をあとにして、次に瑞泉寺に向かいました。八日町広場から格子戸のある町屋や石畳の敷かれた八日町通りを徒歩で散策して、山門に到着しました。山門の龍の欄間彫刻が出迎えてくれているような気がしました。

本堂内で係の方の説明を受けた後、横に建つ太子堂に移動しました。浜縁から向拝にかけての彫刻は、言葉では表現できないものでした。特に手挟みの彫刻は圧巻の細やかさでした。あまりに感動した為、拡大写真を撮るのを忘れてしまいました。



瑞泉寺太子堂の虹梁・手挟み

勅使門に移動し、江戸時代中期から始まる井波彫刻の原点であり、日本彫刻史上傑作とされている元祖番匠屋9代田村七左衛門の代表作「獅子の子落とし」を目の当たりにした時、後世に伝わる物に携わるという観点で、建築士としてより一層の研鑽を積み、日々努力を重ねていく必要があると、気持ちを新たにすることができました。

最後になりましたが、ご多用の中ご参加頂いた皆様ありがとうございました。

(記・高田支部 村井利光)



お知らせ

Information

●平成26年度通常総会について

日 時 平成26年 5月20日(火)

場 所 奈良県文化会館 (奈良市登大路町 6 - 2)

受 付 15:00より

総 会 15:30~17:15

議 事:平成25年度事業報告及び決算承認について
: 役員の選任について
: 平成26年度事業計画及び予算(案)の承認について
: その他

懇親会 17:30~19:00 (会費3,000円)

※詳細はチラシ(4月同封済)をご覧ください。

*正会員の皆様におかれましては出欠表の提出を、必ず5月8日(木)までをお願いします。欠席される場合は必ず委任状もあわせてお願いします。

一般社団法人の認可を受け、総会の議決には総正会員の過半数の出席(委任状を含む)が必要です。残念ながらご出席できない場合は、必ず委任状をご返送下さいますようお願いいたします。

●平成26年度一級・二級・木造建築士定期講習年間計画についてのお知らせ

平成26年度は主催が奈良県建築士会に変わります。

平成26年度の定期講習につきましては、(一社)奈良県建築士会が受付を行います。

第1回 講習日時 平成26年 6月25日(水)

受付期間 終了しました。

会 場 奈良県産業会館 (大和高田市)

定 員 100名

第2回 講習日時 平成26年 8月27日(水)

受付期間 6/2(月)~6/18(水)

会 場 春日野荘

定 員 60名

第3回 講習日時 平成26年11月19日(水)

受付期間 9/1(月)~9/17(水)

会 場 奈良県産業会館 (大和高田市)

定 員 100名

第4回 講習日時 平成27年 2月25日(水)

受付期間 12/1(月)~12/17(水)〔予定〕

会 場 春日野荘

定 員 60名

※詳しくはHP又は事務局(T E L : 0742-30-3111)までお問い合わせください。

なお、26年度の受講申込書は常時配布いたします。

●平成26年度建築士試験日程の案内

1 平成26年一級建築士試験日程(予定)

①申込書配布 4月1日(火)~5月12日(月)

②申込受付 5月8日(木)~5月12日(月)

③「学科の試験」 7月27日(日)

④「学科」合格発表 9月9日(火)頃

⑤「設計製図の試験」 10月12日(日)

⑥「設計製図」合格発表 12月18日(木)頃

2 平成26年二級建築士試験日程(予定)

①申込書配布 終了しました。

②申込受付 終了しました。

③「学科の試験」 7月6日(日)

④「学科」合格発表 8月26日(火)頃

⑤「設計製図の試験」 9月14日(日)

⑥「設計製図」合格発表 12月4日(木)頃

3 平成26年木造建築士試験日程(予定)

①申込書配布 終了しました。

②申込受付 終了しました。

③「学科の試験」 7月27日(日)

④「学科」合格発表 9月9日(火)頃

⑤「設計製図の試験」 10月12日(日)

⑥「設計製図」合格発表 12月4日(木)頃

※申込書配布・受付については(一社)奈良県建築士会にて行います。

※詳細は(公財)建築技術教育普及センターのホームページをご覧ください。

●図書のご案内

「建築施工系技術者を育成するための手法とツール

—中小ゼネコンが抱える問題点と解決へのヒント—

(公益社団法人 日本建築士会連合会)

奈良県建築士会事務局にありますのでご覧になりたい方は、閲覧して下さい。

●ご挨拶

鹿沼高秀



このたび平成26年4月1日付で、一般社団法人奈良県建築士会事務局長を拝命いたしました。私は本年3月末まで奈良県職員として長年にわたり勤務をして参りました。その経験を活かし、当会の発展に尽力していく所存ですので、会員の皆様には何かとご不便をおかけすることもあるとは思いますが、どうぞ御指導御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

さて、当会が一般社団法人に移行して1年経過いたしました。組織改編の影響は会計処理をはじめとして色々なところで出ていたかと思いますが、いずれにしても当会の設立目的である建築士の品位の保持及びその業務の進歩改善に資するため、よりいっそう様々な活動を進めていくことが重要と認識しています。そのためにも事務局はしっかりと会員の皆様の活動をサポートしていけるよう微力ながら努力を続けてまいります。まだまだ至らぬ所はありますが、どうぞ気軽に声をかけていただき、事務局をご利用いただきますようお願いいたします。ご挨拶とさせていただきます。

新入会員のご紹介 『よろしく』

氏 名	支部	〒	住 所 (自宅)	勤 務 先
辻 雅 之	奈良	630-8306	奈良市紀寺町804-7	奈良地方裁判所
小笠原 香代	郡山	639-1042	大和郡山市小泉町4-78	小笠原建築研究室
太田 隆 司	橿原	634-0804	橿原市内膳町4-5-12	(株)アーバンリバース

編集後記

寒い暖かい寒いを繰り返し、お水取りを過ぎると暖くなるというのを実感し、春を楽しんでいる毎日ですが、花粉症を患う身としては日々その対策にも気を許せません。昨今は多種の薬が出て自分の症状にあった選択ができますし、めがねやらマスクやいろいろありますが辛いのに変わりはありません。新しい薬は結構高いです。そういえばはじめて花粉症の症状が出た昭和の終わり竹下内閣が消費税法を成立させ四半世紀がたって社会保障のために税率が上がるとのこと。憂鬱な春がさらにもやもやしてしまいます。アベノミクスの経済政策に配慮して2段階に渡りあがるので、駆け込み需要の波が2回くるというポジティブな？捉え方をされるところもあるようですが、10%になると重税感はん端ないような気がします。ただでさえ建築費が上がっているのでも事業の実施に影響を受けておられ方も多いのでは。税により社

会を支える気持ちを持ち続けるとともに有効に使われることをしっかりと見守らねばと思います。

現代は社会とつながるさまざまな情報のツールがあり、判断、意思決定が高度にできそうですが、未来を見透かすのは困難です。奈良県のGNPは下がっているとマスコミの記事を横目で見ながら今後は厳しいかなと感じ、近畿圏の経済速報は回復傾向と雑誌で読みいけるのか？と思い、SNSで種々の動きを探ってみる。今年の動向を強気にみるか守りに徹するか迷うのは目の前の情報の多さが返って災いしているような気がします。士会ならの記事が皆さんにいい情報であることを願いつつ、これからも情報の海を泳いでいきましょう。

(記・福本保治)

Calendar

2014年5月

- 1(木) 一級建築士試験申込書配布 (12日迄・10日(土)11日(日)共)
- 3(土) ☒ 憲法記念日
- 4(日) ☒ みどりの日
- 5(月) ☒ こどもの日
- 6(火) ☒ 振替休日
- 8(木) 一級建築士試験申込受付 (12日迄・土日共)
- 9(金) 橿原支部報告会(橿原オークホテル)
- 10(土) 五條支部報告会(かぎおか)
- 14(土) 近建青定例会議(奈良)
- 16(金) 高田支部報告会(高田経済会館) 天理支部報告会 (ウエルカムハウスコトブキ) 吉野支部報告会(千石荘)
- 20(火) 平成26年度通常総会(奈良県文化会館)

士 會 奈 良

通巻595号
平成26年5月1日(発行隔月1回1日発行)

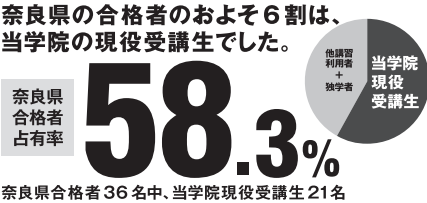
発行所 一般社団法人 奈良県建築士会
〒630-8115 奈良市大宮町2丁目5-7 奈良県建築士会館
電話 0742-30-3111 FAX 0742-33-4333
<http://nara-kenchikushikai.or.jp/>
info@nara-kenchikushikai.or.jp
発行責任者 福 本 良 平
編集 (一社)奈良県建築士会 情報・広報委員会
印刷所 株式会社 明新社

Calendar

2014年6月

- 13(金) (公社)日本建築士会連合会通常総会 (東京：建築学会ホール)
- 25(水) 平成26年度第1回定期講習 (奈良県産業会館)

平成25年度 1級建築士 設計製図試験



平成25年度 2級建築士 設計製図試験

奈良県の合格者の
およそ2人に1人は、
当学院の現役受講生でした。

奈良県 合格者占有率 **47.5%**

奈良県合格者61名中、
当学院現役受講生29名

平成25年度 宅建士試験

平成25年度 1級建築施工管理技術検定 学科試験

平成24年度 1級建築施工管理技術検定 実地試験

当学院基準達成
現役受講生
合格率 **82.9%**

8割出席・8割宿題提出・公開統一模試得点率8割以上
現役受講生 252名中合格者 209名

当学院基準達成
現役受講生
合格率 **95.2%**

8割出席・8割宿題提出
現役受講生 230名中、合格者 219名

当学院
現役受講生
合格者数 **956名**

※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。

無料 体験入学会・講座説明会実施中!!
実績が証明した、当学院講座品質。ぜひ、体験してください。

1級・2級 建築士	1級・2級 建築施工管理技士
構造設計1級建築士	1級・2級 土木施工管理技士
宅地建物取引主任者	インテリアコーディネーター

総合資格学院

講座に関するお問合せ・資料請求はコチラまでお気軽に!

奈良校・橿原校 〒631-0822 奈良県奈良市西大寺栄町3-27 泉谷ビル 4F
TEL.0742-30-1511

www.shikaku.co.jp 総合資格 検索